

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4373000431		
法人名	有限会社紫おん福祉の家		
事業所名	紫おん福祉の家		
所在地	熊本県芦北郡芦北町鶴木山1288-5		
自己評価作成日	令和4年 9 月30 日	評価結果市町村報告日	令和4年12月25日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を感じ家庭的雰囲気の中で、入居者9名の方々が生活を、楽しんでおられます。職員は経験豊で、毎日4~5名で勤務表により介助・支援に従事しています。地域老人会との交流、コーラスグループ訪問演奏会、音大の音楽療法、自家菜園があり野菜づくりも取り入れて変化のある生活にこころがけています。日々の流れでは、残存能力に応じた機能訓練、歩行訓練、ラジオ体操、口腔ケア、カラオケ、算数、塗り絵、パズルを実施しています。特筆は過去に若年性認知症の方2名受け入れました。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の外部評価での訪問から数名の入れ替わりがあったものの、家庭的な生活の営みが続いている入居者の方々の様子は変わらず、温かく迎えて頂きました。海・山を見渡せる庭で季節の花や木々を楽しみ、花の後は種を採り、季節の巡りと四季を楽しみ恵みを感じる等、日々の生活は特別のことでなく、昔ながらの営みを感じる生活が続いています。町では近年水害や台風による被害も出ており、今年の台風予報時には事業所全体で町の施設に避難し、ケアが大変であった中、まるで一泊旅行のように賑やかに過ごす入居者皆さんとの様子も聞かれました。事業所と地域・行政等との繋がりが大きく、町の皆さんで入居者を支援し、生活の継続を支援されている様子が窺えました。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和4年10 月28 日

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安全安心、自立、基本的人権の尊重を旨として、年2回職員研修において学び、個々に合った支援をしている。	代表者と管理者は創設時から変わらず理念の大切さを職員に問うている。職員との共有は会議や日々のケアの中でも確認され、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年もコロナで活動が出来なかったが、例年は民生委員さんを中心に地域出身の職員により繋がりが出来ている。ソーマン流し、音楽療法、花見、等を行った。今年は花一杯運動で苗をいただいたり、どんど焼きではぜんざいを皆でご馳走になっている。	コロナ禍で以前のような地域と入居者の相互交流は難しい状況が続いているが、リスクレベル等検討の上、できる範囲での交流が続いている。避難訓練には地域役員の関わりも続いており、生活の中での交流が継続している。	今年度は3年ぶりに地域行事の再開も始まりつつある様子が聞かれました。これまでの地域との関わりが今後も継続されるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、コロナで活動が出来ないが、前項の行事で認知症の予防や理解を深めるようにしている。認知症カフェなどにも参加して何らかの手伝いが出来たらと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では、月行事やご利用者の近況を細やかに報告している、ヒヤリハットなども報告している。災害時の避難方法なども話し合っている。芦北町にコロナ陽性者が多い時は文書にて報告している。	コロナリスクレベル等により、できるだけ対面で開催できるよう都度検討している。会議には町役場・家族の参加があり、事業所の取組みの報告に加え、会議参加者と町役場との情報交換の場にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役場に出向き、町役場担当者との連携はよくとれていると思う。コロナ自粛の前は、運営推進委員にも毎回出席してもらい、情報をいただいている。	運営推進会議への参加もあり、毎回コメント・情報をもらっており、日頃は事業所からの報告・連絡・相談により協力関係を築いている。代表者と町役場とはコミュニケーションもとれており、細かなことでも話し合える関係性が見える。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針である。事業所内研修でも学んでいる。身体拘束適正化委員会では、チェック機関を運営推進委員会にもお願いすべく、拘束、虐待防止に取り組んでいることを報告している。	事業所全体で身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。今年度は、事業所内研修で「不適切なケアや高齢者虐待とストレス」「高齢者虐待を考える」を掲げ、身体拘束をしないケア・虐待防止の学びも深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内研修で年2回以上研修している。コロナ禍で今は出来ないが、グループホームブロック会でも寸劇を通して学んでいた。		

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2018, 9. 県主催の高齢者権利擁護特別研修参加。2019, 9. 県権利擁護推進委員会研修参加。研修で学んだ事を事業所内研修にて、職員と共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、十分説明している。特に入院になった時の待つ期限についても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員に家族代表を2名お願いしている。ご家族の面会の時などに聞く事している。	運営推進会議には家族代表も参加している。例年、家族面会も多いが、コロナ禍であることから感染症対策を考えた受入れとなり、入居者の日頃の様子を電話連絡したり写真を送る等、意見の出しやすい関係が途切れないよう取組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内研修や、日常のミーティングの中で意見や提案を聞いている。	代表や管理者は、研修や会議時だけでなく日常的に職員と話す機会を持っている。特に職員の働きやすい体制や環境作りへの配慮がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算、特別処遇改善加算、支援金などで、以前よりは給与のアップが出来た。コロナ慰労金も出た。職員の平均年齢が高いため無理の無い勤務体制にしようと努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内研修、施設長からの会話に交えた講話などでケアの内容が向上シタケースもある。コロナで思うように外部の研修ができない。ZooM研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前はGHブロック会でビーチバレーなどをしたが、コロナで中止している。研修会は、一昨年の水害で床上浸水被害を受けた3カ所のグループホームの真に迫る体験を聞き、もしもの場合どうするかを話し合った。		

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と家族と入所時に良く話を聞き、職員で共有し、安全と安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時、時には電話などでご家族の不安や心配事、金銭面などのことも聞き、必要に応じて生保などの申請もお手伝いしている。家に残されたご家族の相談にもものっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で「その時」必要としている支援を把握し、ケアプランに入れ、医療連携、週末ケアも含めて相談に応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの小さな役割を持ってもらうなどの努力をしている。例えば、テーブル、トレー拭き、調理の下拵え、新聞たたみ、洗濯物たたみなどをお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診介助の多い方、町外の受診はご家族にお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナで、お祭りなどにも出かけられず、電話やお手紙などをお願いしている。ご家族からお葉書や、花、お菓子などの贈り物がある。毎月、その月に撮った写真を送り、面会出来ないが元気で活動して居られる事をお伝えしている。	近年コロナ禍であり、以前からの来訪・訪問・地域等との馴染みの関係継続が難しい状況が続いているため、家族との関係が途切れないよう、場所等を工夫してできるだけ面会を受け入れている。以前は音楽リハビリやボランティアでの来訪も、現在は再開の模索中である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日当たりの良い所にソファを置き、話したり食事やおやつの座席の考慮で良い関係が出来ている。		

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に行かれたときなど面会に行ったりにしていたが、コロナで行けず、いかれた施設がコロナのクラスターが起きた時は、手作りのケーキと飲み物などを見舞いに持って行った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時とか、お茶の時間などに、ご希望や思いを聞くようにしている。	事業所での日々の生活は「特別」のことではなく、これまでの慣れ親しみ繰り返されてきた「日常生活」であり、入居者と職員も以前からの顔見知りのように寄り添い、語らうことで思いや意向の把握を行っている。状況報告時や介護計画作成時には家族の意見も確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に、以前のケアマネジャーから情報を「いただいたり、ご家族や地域のかたの交流の中でお聞きして、経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のミーティング、朝夕の引き継ぎにて把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の研修会や朝の話し合い、毎夕の引き継ぎで把握している。記録も取っている。	介護計画は職員の意見・入居者本人・家族の意見・意向をもとに作成担当者が作成している。作成した介護計画や日々の入居者の様子は毎日のミーティングや職員間の引き継ぎ、毎月の勉強会等で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録、申し送りノートなどに記録して、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町外の受診にご家族が行けないときは、その日休みの職員に時給を払ってもらって受診したり、訪問マッサージに町のサービス券を使ったりして、ご本人の要望に応えるようにしている。		

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区区長、民生委員、消防団、その他地区住民の協力を得て、安心、安全に努めている。包括主導の健康教室などにもコロナが収まったら参加出来たらと考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望される主治医の毎月の診療を訪問診療と通院受診で受けている。その他、歯科、精神科、整形外科、訪問歯科をうけている。医療連携は十分にとれている。	入居者が希望されるかかりつけ医の受診を支援している。協力医は月2回の往診がある。通院が必要な場合、基本的に町内の医療機関の場合は職員介助による通院、町外の医療機関は家族での通院介助を依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤であり、看護も介護も連携が良くとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院との情報の交流、相談は、看護師を中心に良い関係ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご家族と話し合い、ご本人に一番ふさわしいケアを受けられるよう話し合う。特に終末期には、医師、家族、GHの三者にて協議をかさねて取り組んでいる。	看護師資格を持つ職員も常勤で、医療機関との情報共有できている。実際にその時を迎える際には、関係機関・家族・事業所と協議を重ね、入居者本人にとって良い介護が受けられることを第一に支援を行い、希望される場合は医療機関への入院等に繋げる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師は常勤であり、看護も介護も連携が良くとれている。医師の指導、指示により対応している。訓練は定期的には行っていないが、対応の仕方は、マニュアルを事務室にはっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練を行っている。消防団、地区住民、役場との協力体制ができています。R2.8.台風10号到来時ホーム全員県立青少年の家に避難し、反省をふまえBCPを作成中。	有事の際には地域の協力も得られるよう体制を整えている。年2回の火災避難訓練にも地域の立ち合いも見られる。大きな台風が予想される際には町施設へ全員避難を行っている。避難の振り返り・反省は役場にも提出し情報共有をおこなっている。今年度の避難の際には持出し用品の見直しを行った。	

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	経営理念に個人の尊重、自立、安心、安全を基本に、言葉かけを気にかけている。排泄、入浴介助の時など特にプライバシーを大切にしている。	理念にも「お一人おひとりを大切に」と謳われており、事業所の基本姿勢となっている。現状特に気になる点は見られない。事業計画にも「支援にあたっては衛生面やプライバシー等に十分配慮する」と項目を掲げ取組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に心がけ、表情に留意し、コミュニケーションを図って。一人一人の状況に柔軟に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の状況に応じて、出来るだけ希望に添って支援している。創作活動も塗り絵か計算ドリルか、その方の好みで、能力で選ばれるよう選択肢を増やしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みや季節に合った洋服、整髪、お洒落に気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材、家庭料理、行事食に気遣い、利用者も出来る範囲で一緒にやっている。減塩に留意し、麦飯、小豆、サツマイモも時には取り入れている。塩分測定器で、誰が作っても減塩食ができるようにしている。	慣れ親しんだ地元の味を職員の手作りで提供している。野菜や海産物も豊富な地域で、「安心しておいしい食事が摂れるよう」「利用者の特性・個性を重視しおいしい食事を提供する」ことは事業計画の第一項目に掲げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は記録をとっている。今年の夏は異常に暑いので3時のお茶には、保水性のあるアクエリアス、OS1などを提供し、食事量が減り、体重減少が見られる方には高カロリー飲料、ゼリーを提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きをされるよう声かけし、ご自分で出来ない方は介助している。		

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録から、お一人お一人のパターンを把握し、シグナルを見逃さず自立に向けた支援を行っている。	排泄記録や入居者それぞれの仕草等にも配慮し、できるだけトイレでの排泄が継続できるような支援を行っている。牛乳や果物等、自然な排泄に向けた日々の食事の提供等もやっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料を取り入れ、飲食物の工夫はもとより、主治医や薬剤師に相談しながら、服薬や座薬、浣腸等しようしている。頑固な便秘症の方に朝牛乳とキウイ1個を提供し改善している方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や湯加減の好み、入浴時間の長短などを考えて入浴する順番を決め、色々話を聴きながら入浴していただいている。	週3回1対1の入浴を基本とし、それぞれの好みの湯加減や体調等に配慮し支援している。入浴は身体の清潔を保ただけでなく、体調・精神面にも安らぎを与えるものと位置し、皮膚状態等のチェックの場であることを共有し支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	困難な方もおられるが、運動、入眠前の歌DVD鑑賞、服薬管理で眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指示の下、看護師を中心に全職員が共通理解を持ち、服薬薬は二人で確認し、誤薬のないようにしている。拒薬傾向、嚥下困難の方には粉碎出来る薬は粉碎してエリースイートで溶いて与薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や談話の中で得た情報から、ご本人が楽しく思われることを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染防止のため、花見なども、車から降りることはせず、車窓からさくら、さつき、などの花見をした。眺めの良い庭があるのでベランダでお茶にしたり、芝生にイスを出してキックサッカーをしたり、廊下を歩いてポイント制にしてはつてきに	例年、季節の花見やドライブ、外食や地域行事への参加等、日常生活や計画による外出支援を行っている。今年は感染症予防もあり、季節の花見や自宅近くへのドライブ等、車内から楽しむ工夫を行った。日常生活では庭で花を愛でたりお茶を楽しむ等、外気を感じている。	

紫おん福祉の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない方が殆どで雑費としてお預かりし、面会の際はサインをしていただいたが、コロナでご家族の面会がないので、雑費帳のコピーを請求書に同封している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話は繋いでいる。ご家族に電話したい方には、ご家族の都合の良い時間に電話をかける手伝いをしている。手紙が来たら、宛名だけお手伝いしご本人に書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、行事の写真を飾ったり、創作活動でご自分で創ったもの等を自室や廊下に飾っている。手作りカレンダーを各自の部屋へ掲示している。	家庭のリビングを思わせる共用空間では食卓の他にソファも置かれている。食卓では季節の野菜の下ごしらえや製作物を作る姿も見られ、「茶の間」のような温かい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを3カ所に置いて、好みの場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お気に入りの自宅から持ってきた家具を置いたり、ソファを置いてくつろげるようにしている。	洗面台が完備された居室には自宅から持ち込まれた家具もあり、毎月の製作物や家族写真、自筆の書等が飾られている。夜間ポータブルトイレを利用される方もおられるが、昼間は目立たないよう部屋の隅に置かれている。安全面から家具・ベッド等の配置にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全、安心を目標に個々に合わせた椅子を置き、手すりの設置、ベッドから降りたとき滑らないように滑り止めマットを置いている方もいる。ベッドから降りる時、不安な方にP型レバーを設置し、夜間のポータブルトイレ使用時の安全を確保している。		

## 2 目 標 達 成 計 画

紫おん福祉の家

令和4年12月13日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	1ヶ月
1	19	コロナが収束せず面会に制限	交流の機会を作る	ご家族に電話の要請	1ヶ月
2	49	コロナが収束せず外出に制限	外部の人と接触せず外出	車に乗って景色を楽しむ	1ヶ月
3	34	BCP(災害、感染)作成中	完成させる	労務士と相談の上作成	3ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。